

辺野古新基地に反対



県民集会

安保法案も阻止

新基地建設阻止に向け集結した県民集会の参加者ら＝5日午後2時すぎ、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前

県選出の野党国會議員と県議会与党会派、市民団体でつくる「止めよう辺野古新基地建設実行委員会」が主催する「辺野古新基地建設断念！戦争法案廃案！安倍政権退陣！工事再開を許さない！県民集会」が、5日午後2時から名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前で開かれた。米軍普天間飛行場の辺野古への移設計画をめぐる県と政府の集中協議は7日に第5回が予定されるが、政府は協議終了後に海上作業を再開させる方針。集会参加者は新基地建設を阻止する決意を新たに示した。

開会前、会場周辺は大雨に見舞われた。集会は新基地建設断念のほか、国会で審議中の安全保障関連法案の廃案、法案成立を目指す安倍政権の退陣も訴えることが目的。新基地建設と安保法案に反対の声を上げることとで、あらゆる「戦争につながる動き」(実行委)を阻止することを訴えた。

辺野古周辺での県民集会は昨年8月の海底ボーリング調査開始以降、5回目。開始前から親子連れなど多くの市民らが駆け付け、安保法案などに反対する若者らの団体「SEA LIDS RYUKYU(シールズ琉球)」の学生らも参加し、ゲート前は熱気を帯びた。



安倍政権の退陣要求



県民集会前、大雨に見舞われテントなどで雨宿りする参加者ら。フェンスの向こうには様子をうかがう警備員の姿が見える＝5日午後1時半すぎ、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前



辺野古新基地建設反対の県民集会で声を上げる県民ら＝5日午後2時ごろ、名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブゲート前



大雨が降る中、集会開始前に会場に駆け付け、テントで待機する参加者＝5日午後1時半ごろ、名護市の米軍キャンプ・シュワブゲート前